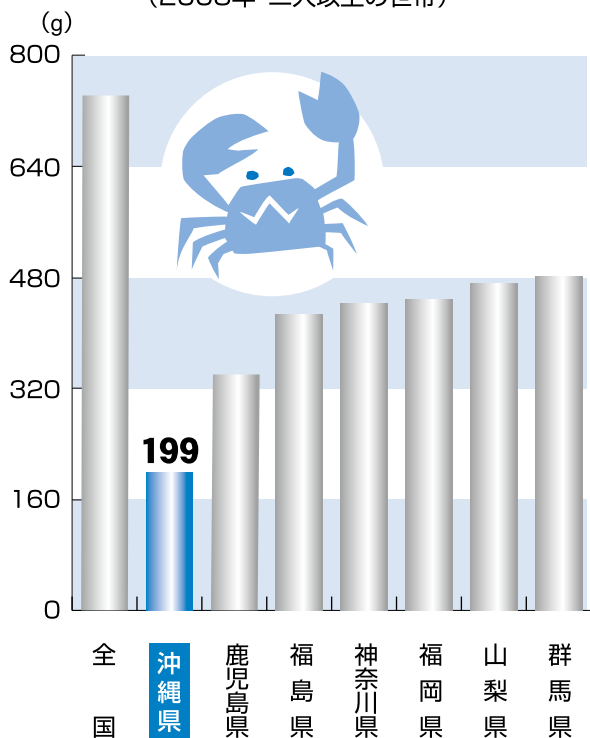


【一世帯当たりカニ消費量】

1世帯あたり都道府県別カニ消費量
(2008年・二人以上の世帯)



199グラム

冬の食材の一つといえばカニと答える方も全国的には多いのではないだろうか。テレビ番組でおいしそうなかニを見る機会も多く、インターネットなどによる通信販売のお取り寄せも人気のようだ。

県内での消費量はどうか。総務省「家計調査」(2008年)によると、県内の1世帯当たりのカニ消費量は199グラムと全国で最も少ない。全国平均742グラムと比較しても500グラム以上も差があるのだ。ちなみに全国1位の鳥取県は4641グラムと沖縄県の20倍以上の消費量だ。

カニの消費量は太平洋側と日本海側で分かれていて、日本海側の消費量が多いようだ。

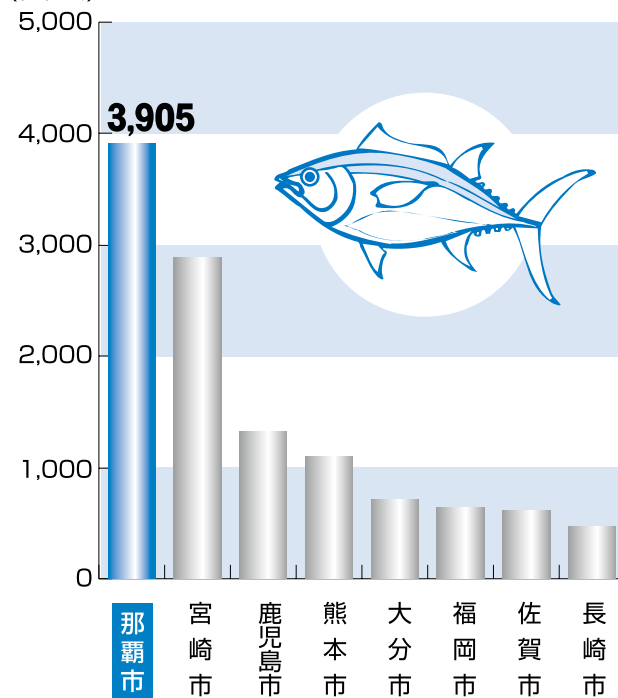
沖縄でとれるカニといえばガザミやアサヒガニなどがある。あなたのお好みのカニはどちらだろうか。

南国でとれるカニは観光客にとっても珍しい一品？

(海邦総研経営企画部／新里治史)

【まぐろ年間消費量(那覇市)】

まぐろの年間消費量
九州・沖縄地区県庁所在地(2008年1世帯あたり)
(グラム)



3905グラム

年間を通して最も人気の高い魚はというと「まぐろ」。沖縄県における魚介類の消費量は全国最下位である中、特にまぐろは多く食べられているようだ。

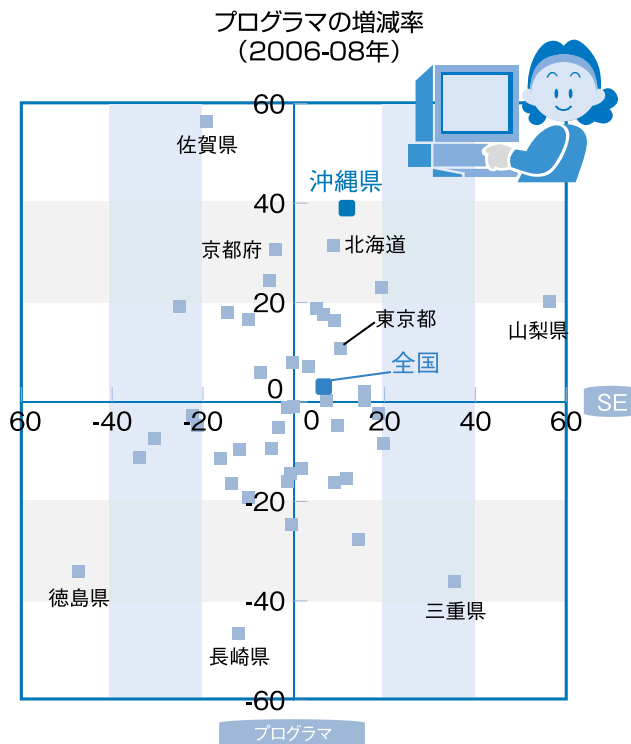
総務省の「家計調査(2006~08年平均)」によると、1世帯あたりの那覇市のまぐろの年間消費量は3905グラム(2人以上の世帯)。九州・沖縄地区の県庁所在地のなかではトップ、全国の県庁所在地のなかでも7番目に多い量となっている。

沖縄県において年間漁獲量に占めるまぐろの割合は5割強となっており、新鮮で味もよく価格も安いポピュラーな食材となっている。

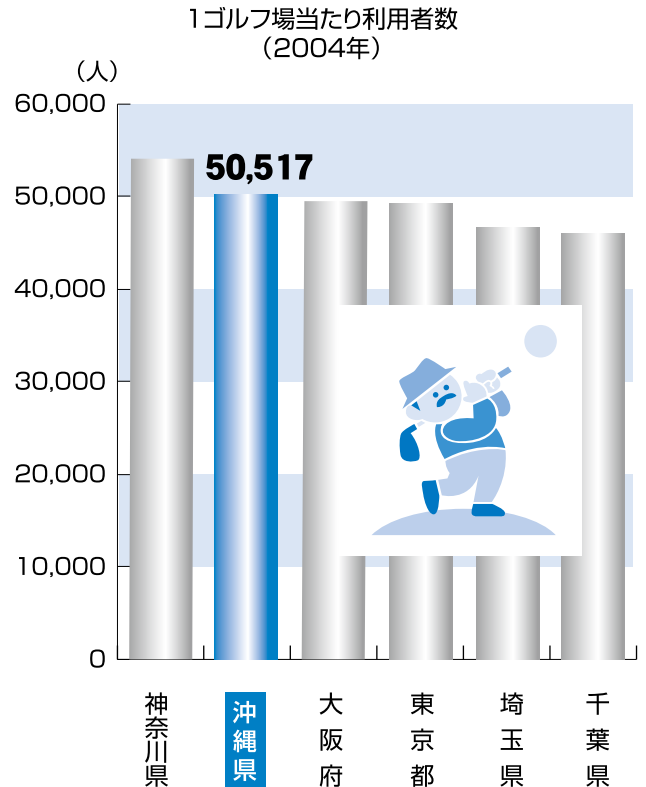
世界的にまぐろ漁獲量の制限が厳しくなっている今日、沖縄県産のまぐろが全国の家庭の食卓に並ぶのは近いのかも…?

(海邦総研人材開発部／喜納健)

【プログラムの増減率】



【1ゴルフ場当たり利用者】



38.9%

パッケージ開発や組込み系、Web系など、一口にプログラムと言っても、その内容は多岐に渡る。経済産業省「特定サービス産業実態調査(2008年)」によると、県内のソフトウェア業および情報処理・提供サービス業におけるプログラマ数は、2006年以降の2年間で38.9%増加しており、全国で3番目に高い伸び率である。また、システムエンジニア数も11.7%増と、全国的にみて高い伸び率だ。

沖縄ではここ数年、高度な知識やプログラミング技術が必要となる情報処理関連の国家試験や実務検定に、高校生など将来のIT産業を担う世代が続々と合格している。IT産業は典型的な労働集約型で、失業率改善の観点からも発展が望まれる産業の一つだ。教育環境の整備が進み、優秀な人材が輩出されるようになった。沖縄のIT産業が国際競争力を持つ日も近い?

(海邦総研経営企画部／大井佐和子)

5万517人

温暖な気候に恵まれ、1年中スポーツが楽しめる沖縄。県出身のプロゴルファーらの活躍や毎年開催されるプロツアーなど、身近に感じられるスポーツの一つにゴルフがあげられるだろう。

経済産業省「特定サービス産業実態調査」によると、2004年における沖縄の1ゴルフ場当たり利用者数は50,517人。全国でも2番目に高い数字だ。上位5位までを首都圏や大阪府などの大都市が占める中、^{とうしょ}島嶼県である沖縄の数字は際立っている。

一方、ゴルフを目的とする観光客は全体の約4%。沖縄独特の自然景観を活かしたロケーションの素晴らしさや、プロツアーでも使用されるコースでのプレイはゴルファーの楽しみでもある。リゾートゴルフ地としての沖縄の認知度が上がれば、ますます利用者が増えそうだ。

(海邦総研経営企画部／国吉真吾)